

暮らした 森林の 共生

大きな活動を展開している人がいると聞き、八頭町を訪ねた。同町久能寺で縫製工場を営む上野嘉寛さん(69)。「ま、実際に山に行ってみるか」。工場を訪ねた記者に上野さんはこう切り出し、軽トラのエンジン音をかけた。

「今」守る意義が 未来をつなぐ

荒れゆく山林の現状に危機感を抱き、「老楽園」というグループを結成してユニ

「見てみ、あの山はってっぺんまで竹にやられとる」。上野さんの指さす方向に目を向ける

と、びっしりと竹で覆われた山が飛び込んできた。「ここまで密生したらタケノコも生えん。根が浅いので水源かん養林とし

ての機能も果たせず、災害にも弱い。これが広がっているんや」。上野さんは何度も車を止め、山の実態を教えてくれた。

し、竹林の拡大を防ぎたい」。竹やぶを見上げながら、上野さんは静かに語った。

「木が大きくなるには百年、いや三百年はかかる。だから、自分でできることを、明日ではなく今日せなあかん。子どもたちが誇りを持てるような、豊かな森に変えたいんや。あと三年は竹を切り、その後少しずつ広葉樹を植えていく。生きてるうちに、それぐらいできるやろ」。笑顔で話す上野さんの目は、少年のように輝いていた。

上野さんは兵庫県加西市生まれ。生家には、精米などに使う木製の水車があった。戦時中、通っていた国民学校は海軍の兵舎として使われ、授業はなかった。近くの山に入ると、木でナイフや紙鉄砲を作っていた。

一九六八年、大阪の縫製会社の鳥取工場長として赴任。七九年に独立した。還暦を迎え、気心の知れた仲間たちと七年前、高齢者グループ「老楽園」を結成。かつてタケノコ生産で重宝された竹が放置され拡大している現状を知り、これを食い止めるようと、同町下野で竹の伐採や竹炭の生産に取り組んできた。

アイディアマンの上野さんは今年、竹を粉砕した粉を活用してカフトムシの養殖に取り組み。子ども会などに、この粉と養殖地を提供。自由に使うてもらい、代わりに、竹林整備にも協力してもらおう。「子どもたちの心をくすぶりながら竹を上手に消費

工場に戻った後、隣接する自宅の庭をのぞかせてもらった。高さ二十センチほどの広葉樹の苗木が二百本ほど植えられている。その中に、添え木に支えられ、弱々しく立っている木があった。「山に植えたらインシシにやられ、持って帰ったんや」。幹を結ぶ白い布がまるで包帯のように見え、上野さんの愛情が感じられた。

苗木は背丈が低く育つと、竹を伐採した山に子どもたちが植える。

イベント用の皿を作るため切り出した竹を積み込むメンバーら。竹を減らすためには、消費することも大切な



山陰の間伐材を利用した紙容器入りドリンクプレゼント

連載しています特集・広告に関するご意見を郵便またはFAXで募集しています。抽選で20名様に「間伐材を利用した紙容器入りの飲料」(提供:ポッカコーポレーション/250ml入り・24本)をプレゼントします。

ご意見をお送りいただく際にお名前、郵便番号、ご住所をご記入ください。締め切りは11月30日消印有効。なお、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

ご記入いただいた個人情報にはプレゼントの発送のみに使用させていただきます。〒690-0062 松江市魚町10 山陰合同銀行地域振興部内「森林を守ろう!山陰ネットワーク会議」プレゼント係 TEL.0852-55-1820 FAX.0852-28-0495



企画・編集 新日本海新聞社企画開発部

山陰両県の森林保全などに取り組むNPOなどが参加して「森林を守ろう!山陰ネットワーク会議」が設立されました。新日本海新聞社は活動の趣旨に賛同して同ネットワーク会議などの協力で森林保全の輪を広げる企画を来年3月まで随時掲載します。



山に仮植したフナノ苗木を眺める上野さん。秋になり、今年も葉が色づき始めた

森林保全活動レポート その14

南部町 秋の山菜会

地元の山の幸にこだわって半世紀。自然を大切にすることから続く、盛大な食事会です。



豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守ろう!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

鳥取県南部町で毎年5月と10月に開かれる「山菜会」は、地元でとれる山の幸にこだわった逸品ぞろい。その味の良さが評判をよび、この秋で93回目を迎える恒例行事となっています。「昔から大切にされてきた自然があるからこそ、毎回400人近いお客様に喜んでいただける食材を提供できるんです。また、今年はキノコが豊作だったので、26品あるメニューのうち、11品に取り入れるなど、その時期の特徴をふまえてうまくとりいれているのも人気の理由です。」司会や接客で大忙しの南部町地域振興会の高橋さんは、にこやかに語ってくれました。



南部町の特産である豆腐やイチジク、ワインなども、地元の加工センターの方々に取り扱われました。



キノコやクワ、コイアユなどをぜひに使用した料理の数々。

今回の森林保全活動レポートその14に登場する

財団法人 南部町地域振興会
森がもたらした恵みを大切にするため、年間200人の生徒を集めて林間学校をひらいたり、鳥取県内の森林ボランティアと連携して植樹活動などをおこなっています。

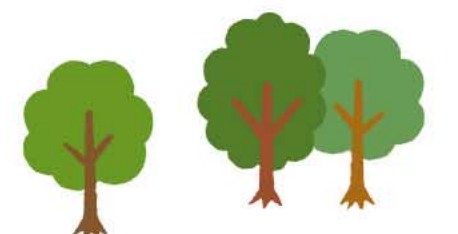
連絡先は
〒683-0343
鳥取県西伯郡南部町
下中谷606
緑水園 高橋副支配人まで
TEL.0859-66-5111
FAX.0859-66-5112
ホームページ
http://www.town.nanbu.tottori.jp/ryokusuiko/

森林を守ろう! 山陰ネットワーク会議 参加団体のみなさん (9月20日現在)

- 鳥取県 NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市) NPO法人 サカズキネット(倉吉市) NPO法人 とっとり希望化計画21(鳥取市) 広葉樹文化協会(鳥取市) 財団法人 南部町地域振興会(南部町) 杉の雫・吟醸の会(智頭町) 大山横手道上ブナを育成する会(米子市) 鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市) 鳥取市女性の森グループ(鳥取市) トリネット(米子市)

- 日野川の源流と流域を守る会(日野町) 丸山生産森林組合(伯耆町) 三朝温泉かじか蛙保存研究会(三朝町) 森っ子倶楽部(鳥取市) 島根県 出雲市林業振興協議会(出雲市) NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市) NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市) 源流の森里山づくり(邑南町) 財団法人 島根県西部山村振興財団(浜田市) 里山を育てる会(松江市)

- しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市) 薪ストーブ同好会(松江市) 松江ネイチャーゲームの会(松江市) 木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市) 森の仲間(出雲市) 遊木民倶楽部(益田市) 特別協賛 新日本海新聞社 山陰中央新報社 特別協力 凸版印刷株式会社



この広告に関するお問い合わせは事務局まで 山陰合同銀行 地域振興部内 島根県松江市魚町10 〒690-0062 TEL.0852-55-1820

みんなで 森を守ろう!